



～ 全国学力・学習状況調査について ～

毎年6年生を対象に行われている全国学力・学習状況調査について、結果が報告されましたので、本校の分析結果と対応についてお知らせします。

今年度の本校の児童は、算数科の正答率は、全国・県と平均がほぼ同じ、国語科と理科の正答率は、全国・県の平均よりやや上回っていました。

この調査は、子供たちの学力や学習状況を把握・分析し、子供たちへの教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この基本姿勢のもとに本校では、子供たちの学力向上に向け、指導の充実を図っていききたいと思います。

1 国語について

(1) 国語科に関する意識調査より

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
▲国語の勉強は得意ですか。	56.2	61.4
◎国語の勉強は好きですか。	61.8	58.3
◎国語の授業の内容はよく分かりますか。	83.2	82.8
◎国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	94.4	90.4
◎国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけていますか。	83.1	79.1
◎国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。	86.5	81.8

(2) 国語の傾向

「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関する事項では、安定した力が身に付いています。しかし、「読むこと」に関する事項や、漢字を正しく使うことにやや課題が見られました。

【問題例】

《全国と比較して正答率が高かった問題》

◎「ちらし」の一部を、「調べたこと」を基に詳しく書く問題

本校 73.3 全国 61.3

◎「話し合いの様子」における小森さんの発言を説明したものとして適切なものを選択する問題

本校 57.8 全国 53.3

《全国と比較して正答率が低かった問題》

▲「木村さんのメモ」の空欄アに入る適切な言葉を「資料2」の中から書き抜く問題

本校 76.7 全国 81.3

▲「ちらし」の下線部ア（このみ）、イ（あつい日）を、漢字を使って書き直す問題

ア 本校 77.8 全国 81.6

イ 本校 65.6 全国 72.1

(3) 本校としての対策

国語の学習が得意と答えた児童の割合は全校平均に比べ少ない結果でした。しかし、国語の学習が好きな児童や「将来役に立つ」と考えている児童の割合は高いです。

子供たちの主体性を育むため、課題解決の方法を選択したり、総合的な学習などの他教科と横断的な学習を設定したりして、必要感をもって学習に取り組んでいけるようにします。また、「国語が得意」と感じられるように、振り返りの場面で、自分の学びを実感することができるようにします。

「読むこと」に関する内容に関しては、どの学年も継続して家庭学習での音読（本読み）や読書を推奨し、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える事ができるようにします。また、漢字の学習においても、家庭学習（書き取り）や漢字テスト等で取り組み、定着を図っていきます。また、作文や日記、普段の振り返りを文字で書く時には、習った漢字を用いて文を書くよう指導していきます。

2 算数について

（１）算数科に関する意識調査より

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
▲算数の勉強は得意ですか。	53.9	60.3
▲算数の勉強は好きですか。	51.6	57.9
▲算数の授業の内容はよく分かりますか。	74.6	78.3
◎算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	94.4	91.6
◎小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。	84.3	80.6
◎算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。	84.3	83.3

（２）算数の傾向

「数と計算」「測定」の領域について、基礎的・基本的な力が身に付いていました。しかし、「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域に課題が見られました。

【問題例】

《全国と比較して正答率が高かった問題》

◎使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く問題

本校 54.4 全国 48.7

◎ $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるのかを書く問題

本校 35.9 全国 23.0

《全国と比較して正答率が低かった問題》

▲方眼上の五の図形の中から、台形を選ぶ問題

本校 42.2 全国 50.2

▲10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ問題

本校 33.3 全国 40.9

▲2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の何倍かを、棒グラフから読み取る問題

本校 71.1 全国 78.7

（３）本校としての対策

算数は「得意」と答えた児童の割合が全国平均を下回る結果になりました。一方、「将来役に立つ」と考えている割合は高いことから、必要感を感じているものの苦手意識が強い傾向にあると考えられます。

問題の正答数から、通分する意味や、なぜその答えになるのかを考えることが得意であると分かります。一方で、図形の性質の理解やグラフから読み取る力、割合から解答を導き出すことが苦手であると考えます。

以上のことから、前学年までの内容を今一度、定着することができるように、タブレット端末を用いて復習問題に取り組みをしていきます。

3 理科について

(1) 理科に関する意識調査より

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
▲理科の授業は得意ですか。	76.4	78.4
▲理科の授業は好きですか。	77.5	80.1
▲理科の授業の内容はよく分かりますか。	88.7	88.9
◎理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	86.5	79.9
◎理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか。	91.0	85.7
◎理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	92.2	88.4

(2) 理科の傾向

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全ての領域で、県・全国の平均回答率を上回っており、基礎的・基本的な力が身に付いています。しかし、記述式で理由を答える問題に課題が見られました。

【問題例】

《全国と比較して正答率が高かった問題》

◎ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題

本校 65.2 全国 45.6

◎乾電池2個のつなぎ方について、直列つなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題

本校 65.2 全国 55.1

《全国と比較して正答率が低かった問題》

▲レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く問題

本校 16.9 全国 29.9

▲ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻き数の変え方を書く問題

本校 67.4 全国 78.0

(3) 本校としての対策

理科の学習が、将来、社会に出たときに役に立つと思っている児童の割合は、全国平均に比べ高く、必要感をもって学習に取り組んでいることが考えられます。しかし、理科の学習が好き・得意と答えた児童の割合は全校平均に比べ少ない結果でした。

理科の学習では、問題に対して予想（仮説）をしたり、観察や実験の結果から考察をしたりする力が大切になります。記述式の問題に課題があるので、理科の学習で考えたこと、分かったことを、言葉や文字で表す機会を増やし、さらに学習の定着を図ります。今後も、理科の学習の必要感をもたせ、理科の楽しさをより感じられるような取り組みをしていきます。

3 質問紙調査について

(1) 気になる設問について

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
◎自分には、よいところがある。	92.1	86.9
◎先生は、あなたのよいところを認めてくれる。	97.8	92.2
◎先生は、授業やテストで間違えたところや、理解してないところについて、分かるまで教えてくれている。	94.4	87.4
◎将来の夢や目標をもっている。	96.7	83.1
◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる。	82.0	70.6
◎学校に行くのが楽しい。	96.6	86.5
◎友達関係に満足している。	95.5	91.7
◎普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	96.6	93.0
◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	92.1	78.1
◎分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	89.9	81.7
◎学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。	89.9	84.9
◎学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。	87.7	79.4
◎授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができている。	91.0	82.5
◎5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器の活用について		
（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	91.0	81.3
（2）分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。	89.9	89.2
（3）楽しみながら学習を進めることができる。	92.2	85.5
（4）画像や動画、音声を活用することで学習内容がよく分かる。	89.9	88.1
（5）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	84.3	77.6
（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	96.6	84.6
（7）友達と協力しながら学習を進めることができる。	95.5	87.5
▲読書が好きである。	64.0	69.7

(2) 傾向と改善方法等について

- 質問紙調査から、自己肯定感の高まりや友達や先生との良好な関係がうかがえます。これからも、一人一人よさを認め、寄り添い、全ての子供の可能性を伸ばせるよう支援していきたいと思います。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」数値が高いことから、家庭や地域からも温かく見守られていることが読み取れます。さらに、家庭や地域との連携を深め、協働しながら人づくりができるよう、持続可能な「コミュニティ・スクール」の活動を計画し実践を重ねていきます。
- ICT機器の活用効果は上がってきており、成果として表れていることをうれしく思います。今年は定期的なタブレットの持ち帰りを実施しています。さらに、活用方法を職員で研修をし、個別最適な学びの実現を目指していきます。
- 本校の研修は、児童が主体的に学ぶことができるよう、友達とのかかわりを通して学びの深まりを感じさせたり、次の学習に生かす振り返りの時間を設定したりしてきました。質問紙の回答から、その効果が出ていることが分かります。さらなる充実を図っていきます。
- 読書に関しては、学年ごと「おすすめの本10冊」読破を呼び掛けたり、国語の単元によって並行読書を行ったりしています。今後も読書週間や金曜読書等、本に親しむ機会を意図的に行っていきます。